教育研究所年報

第34号

2025

文教大学教育研究所

教育研究所年報　第34号

目　　次

2024年度 事業報告

事業報告 ····· 3

第30回「世界の教科書展　特集：ベトナムの教科書」·····4

〈学外巡回展〉

「世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション」·····5

定例研究会·····6

諸外国の教科書収集·····8

2025年度 事業計画

事業計画 ·····10

2024 年度 事業報告

＜研究部＞　研究部主任　山 川　智 子

１．「世界の教科書展」の実施

第 30 回「世界の教科書展　特集：ベトナムの教科書」を、11 月 2 日(土)～4 日(月)に、対面形式で開催。FPT 大学（ベトナム）のグエン・ホワン・ラム先生に教科書の翻訳をお願いした。さらに会場で視聴できる動画も用意した。動画は、ラム先生へのインタビュー形式で収録した。また、12 月 4 日(水)～12 月 11 日(水)に「OKEGAWA hon＋」（桶川）において、巡回展を開催した。巡回展の期間中の 7(土)･8(日)にはベトナムの教科書の実物を展示した。8(日)は公開ミニ講座「ホーチミン市で日本語教育に触れる－現地での活動体験紹介－」（講師：小池拓也氏）を開催した。

２．『教育研究所年報』第 33 号の発刊

研究所年報』第 33 号を 5 月に発刊した。2023 年度事業報告として、第 29 回「世界の科書展　特集：マレーシアの教科書Ⅱ」、〈学外巡回展〉世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション、定例研究会、諸外国の教科書収集、2024 年度事業計画を計 11 頁に掲載した。

３．客員研究員の受け入れ

国内の学術機関（他大学を含む）から計 13 名の客員研究員を受け入れた。

４．「定例研究会」の実施

2024 年度は年 3 回、8 月 10 日(土)、11 月 2 日（土)、3 月 1 日（土）に「定例研究会」を実施した。(通算第 105 回～107 回)

５．海外の教科書データベースのデジタル管理化

収集した海外の教科書データベースのデジタル化を作業中。所蔵教科書 3044 冊中、1928 冊完了。現在進行中である。

＜研修部＞　研修部主任　小 幡　肇

１．『教育研究所紀要』第 33 号の発刊

『教育研究所紀要』第 33 号を発刊した。特集テーマは「『自己調整学習・自由進度学習』の展望」とし、依頼論文２編を掲載。自由研究では、研究論文６編、研究ノート１編、実践研究１編、実践報告２編、書評１編という内容であった。

２．『教育研究所ニュース』53 号の発刊

『教育研究所ニュース』53 号を 11 月に発刊した。巻頭言を「自由にして創意に富める活動を促進し実現する教育計画を師弟協働のもと創る」とし、世界の教科書展「ベトナムの教科書」の報告、海外の教科書所蔵一覧、桶川市〈世界の教科書巡回展〉、2024 年度定例研究会開催のお知らせ、『文教大学の授業』の執筆者紹介を掲載した。

３．『文教大学の授業』88、89、90、91 号の発刊

第 88 号「『物理学は楽しい!』自然科学の話をまとまって学ぶ最後の機会になるかもしれない学生へのメッセージ」(教育学部 長島雅裕先生)、第 89 号「英語科教育法『英語好きで英語力のある生徒を育てる教員の養成』(国際学部 阿野幸一先生)、第 90 号「英語で何を表現するのか：英語教育の原点は英語そのもののためではない」(文学部 グラハム児夢先生)、第 91 号「メディア表現×異文化コミュニケーション『日本文化の魅力を海外へ発信しようプロジェクト』(情報学部 奥村真司先生)。

４．教育研究所ホームページの運営・更新

前年度までと同様、教育研究所の各事業終了豪は、速やかに研究所ホームページに掲載する情報の更新を行い、本研究所の事業報告を広く社会に発信することに努めた。

各コンテンツの整備と発信内容の精査、積極的な情報発信に力を入れていく。

５．刊行物「学校のいま」の発刊

創刊号の発刊に向け、インタビュー調査を終え、記事作成中である。教職希望の現役学生向けの刊行物として発刊準備を整える。

本校卒業生の現職教員に、新学習指導要領・GIGA スクール構想・コロナ禍への対応など、下内の学校教育の様子を紹介してもらう刊行物「学校のいま」を年 1 回発行予定。

第 30 回「世界の教科書展　特集：ベトナムの教科書」

2024 年 11 月 2 日(土)～4 日(月)

研究部主任　山 川　智 子

実施概況

1994年度から開催している「世界の教科書展」は、教育研究所の特色ある取り組みのひとつである。1997 年度の第 4 回の教科書展からは、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催してきた。原則として、ある地域の初等教育（小学校）の主要科目の教科書を展示し、教育制度や教科書の内容を紹介している。回によっては、研究所で協議を重ね、方針を変えた年もある。たとえば、特定の教科（英語など）に焦点をあて、その教科の教科書を複数地域で比較したこともある。来場者と意見交換しながら研究や教育を促進する場として、教科書展は発展してきた。

2020 年度はコロナ禍で中止、2021・2022 年度はオンライン（オンデマンド配信）で開催した。この期間は、教科書の実物展示を行うことができなかったが、2023年度から対面での実施を再開している。

2024 年度の教科書展のテーマは「ベトナムの教科書」とした。FPT 大学（ベトナム）のグエン・ホワン・ラム先生に教科書の翻訳を依頼した。さらにインタビュー動画を作成し、教科書展の開催中、会場で上映した。ラム先生には以下の項目について語っていただいた。

①ベトナムの概要
②ベトナムの教育制度について
③ベトナムの初等教育について
④教員養成について
⑤日本とのかかわりについて
⑥ベトナムでの日本語教育について

教育研究所の貴重な資料を公開する機会を増やすため、2016年度から学外にて巡回展を行っている。さらに、2024年度からは、学内でもリバイバル展をはじめた。原則、前年度の教科書展をコンパクトに再現するものである。公開の機会を増やすことで、より多くの方たちに研究所の活動を紹介していきたいと考えている。

感染症と隣り合わせに生きる時代において、この企画を発展させるための工夫も引き続き検討していきたい。さらに学生たちに関わってもらいやすい教科書展の運営方法も検討し、皆で作り上げていくという教科書展の伝統を引き続き守っていきたい。

世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション
－特集 ベトナムの教科書－

日時：2024 年 12 月 4 日（水）～12 月 11 日（水）
会場：「OKEGAWA hon＋」（桶川駅西口駅前桶川マイン 3 階）
共催：桶川市、丸善雄松堂株式会社

研究部主任　山 川　智 子

実施概況

教育研究所は「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を目的とし、学内外の研究者の協力のもとに様々な研究に取り組んでいる。なかでも、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催される「世界の教科書展」は、教育研究所の特色あるイベントのひとつとなっている。教科書展は 1994 年度から開催され、1997 年からは藍蓼祭に参加する形で行っている。2020 年度はコロナ禍で開催を見送り、2021・2022 年度はオンラインで開催した。前回（2023 年度）から対面開催を再開している。

研究成果を地域の方たちに還元すべく、2016 年度から、桶川市、丸善雄松堂株式会社（教育・環境ソリューション事業部）、文教大学の三者共催で学外巡回展を行っている。こちらも 2020 年度は開催を見送ったが、2021・2022 年度は教科書展示をのぞいた開催方法をとった。パネル展示で当該地域の教育の一端を可能な限り紹介した。教科書の実物展示は、前回（2023 年度）から再開している。

2024年度は、ベトナムの教科書を展示した。パネル展示は全期間、教科書の実物展示は期間中の週末、12 月 7 日(土)・8 日(日)に行った（10 時～16 時）。

12 月 8 日（土）は、ベトナムで日本語教育の経験がある小池拓也氏によるミニ講座が開催された（テーマ「ホーチミン市で日本語教育に触れる―現地での活動体験紹介」）。ベトナム滞在の経験のある方など、多くの方たちにご参加いただいた。講座終了後も、質疑応答が続き、ベトナムに対する関心の高さがうかがえた。

教育研究所では世界各地の教科書を収集し、保管してきた。2017 年度には、モラロジー研究所から教科書の寄贈を受けたこともあり、貴重な資産をそろえることができた。およそ 30 か国・地域の教科書を保有し、その数は約 1 万冊に達している。世界の教科書の収集・管理、および教育研究活動への還元という地道な活動を長年継続している研究機関は国内でも珍しいと言われている。そのため、メディア関係者や他の研究機関からの問い合わせも増えた。教育研究所への協力依頼に誠実に対応できるよう日々精進を重ねている。さらに一般の方たちからも連絡をいただいている。今後、このような貴重資料の活用方法、社会への還元方法について引き続き検討を重ねていく。こうした試行錯誤の連続が「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たす」という研究所の理念に近づくと信じ、引き続き努力していきたい。

定例研究会

教育研究所所長　手 嶋　將 博

本年度の定例研究会は、2024 年 8 月 10 日（土：第 105 回）と、2025 年 3 月 1 日（土：第 107 回）にオンライン方式で、また、2024 年 11 月 2 日（土：第 106 回）藍蓼祭 1 日目に越谷校舎 14303 教室にて対面方式で実施した。第 105・106・107 回となる定例研究会の報告題目と発表者は下記の通りである。

本研究所が定期的に開催する定例研究会は、本学の教職員、学部生、大学院生をはじめ、本学を卒業・修了した OB・OG や現役の教員など、学内外を問わず誰でも参加、聴講、質疑応答ができる場であり、教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たすとともに、教育・教育現場をめぐるさまざまな情況の変化に応じて、常に新しい情報や知見を発信していくことを目的としている。

第 107 回(3/1)定例研究会の様子

2024 年度定例研究会発表要旨

＜第 105 回 2024/8/10（土）＞

「多文化共生社会の創造に向けた生涯学習の在り方」　台東区教育委員会：阪本 陽子

多文化共生社会を創造し、構築するための生涯学習支援の理論とそれに資する学習のモデルを検討するために、先行研究を元に多文化共生を生涯学習の視点から整理するとともに、教育アプローチの概念の分析を試みた。また、地域住民を対象とした学習事業のなかで調査を行い、今後の学習モデル構築のための基礎資料とした。多文化共生の概念やゴールの考え方そのものが多様であり、目指すべき方向に応じた学習モデルがそれぞれに必要であり、学習対象に応じたアプローチを見極める必要性が認識できた。

「教員が学び続けるための環境構築」　一般社団法人子どもの成長と環境を考える会：塚原 元気

教員が学び続けるためには、気軽に「問い」を発散し、解消できる環境の整備が求められる。発表では、オフラインとオンラインの両面から学習環境の充実を図る方法を検討した。オフラインでは教員同士の交流を促すコミュニティの形成を重視し、東京都の事例を参考にしながら学校外のネットワークを活用することの重要性を指摘した。オンラインでは、他の教員の授業を視聴できる遠隔授業のアーカイブ化を提案した。こうした環境を整備することで、教員の持続的な学びを支援していく。

「公立小中学校における性別違和をもつ児童生徒への対応に関する研究 2」

栃木県小山市立羽川西小学校：松嶋 淑恵

公立小中学校における性別違和を持つ児童生徒への対応を、特に組織づくりに必要な要素の分析のため、報告者の小学校での実践事例をもとに考察した。組織づくりにおいては、教職員の意識づくりが土台にあり、性別違和に関する相談がある前から環境づくりを行うことや、知識や意識の共有のために多層的に様々な視点からの複数の研修を行うことが有効であった。また、性の多様性だけに注目するのではなく、様々なマイノリティ性について意識を高め、すべての人は多様であるという意識を持たせ、マイノリティ共感の視点から考えることが重要であることがわかった。

「教員の専門性や教員の専門職性に関する他職間比較研究―“教育保育”の概念の差異に着目して―」

TAC 株式会社：大西 健介

教員の専門性や他の専門職の現状を概観し、教育保育の差異の検討から、教員の専門性について明らかにした。その結果、教員は、各教科の運用が主たるものとなっており、教科教育学を除く教育学の重要性は低いと想定していることが考えられる。そのため、理論と実践の往還という概念が現出していると考えられる。一方で、保育士は、倫理観を基盤とした保育に関する専門的な知識・技能が規定されている。そして、これらの専門知識は、保育学等の科学的知見に裏付けられている。

＜第 106 回 2024/11/2（土）＞

「ビブリオバトルの多様な実践の在り方について－保育の質を高め、キャリアをつないでいくための実践を探る－」　学研アカデミー保育士養成コース：綾 牧子

これまで実践してきたビブリオバトルについて、「①ビブリオバトル×アクティブラーニング、②ビブリオバトル×学校教育、③ビブリオバトル×保育者養成、④ビブリオバトル×キャリア形成、⑤ビブリオバトル×社会教育」の５つの視点から整理した。ビブリオバトルは多様な場で、様々な目的や価値付けで実

践が可能である。企画者・授業者としては、「ビブリオバトル自体を楽しむこと」と「ビブリオバトルを通して、何を実現したいか」を両立させて実践することの大切さを示唆した。

「基礎教育の保障」 **中央大学通信教育部：矢作 由美子**

デューイの理論だけでは、夜間中学の説明に課題を残したことから、ジョエル・ウエストハイマーが説く市民教育から再検討した。ジョエル・ウエストハイマーは、「コミュニティを基盤とする市民性プロジェクト」と呼び、「社会的ニーズと結びついたプロジェクト」と、「ミニチュアのコミュニティ」としての学校を基礎とする多様な学びの場が発展していくことを期待した。教育を受ける権利の保障と地域の連携には、社会変革の為の『参加型アクションリサーチ（CBPR）』のニーズ調査の必要性も加えた。

「小学校英語教育の音声指導をめぐる批判的研究」 **越谷市立越ケ谷小学校：大石 海**

本発表では、小学校の外国語科を担当する学級担任を、批判的応用言語学（Critical Applied Linguistics：CALx）における「豊かな話者」（resourceful speakers）という視点から捉えることを試みた。学級担任を、言語資源やセミオティック資源を広範に、そして柔軟に活用しながら授業を行う「豊かな話者」と捉える見方によって、学級担任を含む教室空間に存在する多様な言語話者の可能性を広げようとすることを目指す。

「合衆国のラティーノ博物館に見る文化的市民権確立の欲求」 **文教大学文学部：丸山 悦子**

米国を事例として、近年の博物館に期待される資質や役割を、歴史的経緯に依拠しながら概説した。本来、公共施設の展示内容は中立性が求められるが、1990 年代以降は文化的多様性への配慮から、エスニック・マイノリティの歴史に特化した博物館が現れた。これらの博物館は連邦政府の補助金を得て、首都および各州で設立されている。目的は文化施設における白人中心主義の修正であったが、公共施設が備えるべき中立性との整合性をどう保っていくかが課題であることを示唆した。

＜第 107 回 2025/3/1（土）＞

「特別支援教育における食農教育の研究Ⅱ」 **越谷市立荻島小学校：木場 雪香**

本年の研究では、特別支援における食農教育の歴史について、以下のことが明らかになった。①特別支援教育は、江戸時代から厳しい目線に耐えながらも実践を積み重ね、戦後 15 年がかかって初の指導要領ができ、30 年近くがかかって養護学校が義務化した事が分かった。②特別支援教育における食農教育は、明治時代から始まっていたことが示唆された。また、戦後も障害のある子ども達と食農の相性が良いことから 1948 年より実践が再開されていたことが分かった。

「公立小学校内における多世代・異文化をベースとした居場所づくりと運営の実践と研究」

特定非営利活動法人地球対話ラボ：中川 真規子

公立小中学校の中にある「もうひとつの」学校「アート小中学校」の実践と、アート小中学校で子どもたちが制作した作品を展示する「豊里アート小中学校展示 2025」の様子を報告。アート小中学校には、「普通」だと学校にいないであろう NPO スタッフやアーティストといった「よそ者」がやってきて、子どもたちとともにアート活動や異文化交流活動を行う。展示では、子どもの分身とも言える絵画を中心とした作品の展示会を行い、子どもと社会、学校と社会をつなぐ。オルタナティブな学び、多様な学びの在り方を学校と共に模索するプロジェクト。

「就学前教育と小学校教育とのカリキュラム接続の研究－1980 年代後半～1990 年代後半のわが国における就学前教育と小学校教育との接続の特徴－」 **彰栄保育福祉専門学校：梨子 千代美**

本発表では、1980 年代後半から 1990 年代後半までの就学前教育と小学校教育が、どのように接続の基盤をつくったのかについて幼児教育に係る教育法制等に着目しながら明らかにした。1980 年代後半では、「遊び＝学び」の定義を接続のための方法論的根拠としたこと、1990 年代には、小学校以降の学習の基盤として幼児教育を位置付けたことが、就学前教育と小学校教育との接続の基盤となったといえる。

「豊かなかかわり合いの中で、今と未来にいきる－自分が好き、ひとが好き、運動が好き－」

川越市立川越小学校：清水 香保里

本研究は、自尊感情と体育科の学校研究である。研究３年目は、県と市で研究発表会を行った。学習過程や教材教具の改良、児童中心の授業外体育的活動、自己有用感を高める工夫等を実施した。成果は、毎月の調査から自尊感情の向上がみられ、１時間内の運動量の確保と授業外での体育的活動の推進で体育の技能と体力が向上した。また教師の体育授業の意識が高まり、授業の質的向上が図られた。課題は、今回取り組んだ新しい運動についての有効性の検証である。

諸外国の教科書収集

教育研究所では、設立当初より海外の教科書を収集してきた。収集した教科書は「世界の教科書展」に展示し、近年はマスコミからの問い合わせや取材依頼も多い。

1. 初等学校（計 28 ヵ国　2,247 冊）　（2025 年 3 月 31 日現在）

教科／国	国語	社会	算数	理科	生活科	総合科	音楽	美術	体育・健康	実科	英語	日本語	道徳・宗教	情報	国際理解	その他	計（冊）
アメリカ	42	16	46	8		5										3	120
イギリス	20	12	8	12										10			62
イタリア	30	16	16	7		7		3			18		7			23	127
インド	141		5			10			7				9	15			187
インドネシア	6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
エジプト	19	9	10	6	20						16		20				100
オーストラリア	60	7	23	18				6	10	6		3	3		1	7	144
オランダ	2	3	6	6							1					2	20
韓国	26	14	23	16	10		4	4	8	2	6		10			8	131
ケニア				3													3
シンガポール			23	13					6		5						47
スイス	2		1														3
スペイン	6	4	6	6		4					6		7	2		1	42
スリランカ	7		5								6		6				24
タイ	12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
台湾	21	14	22	14	6	20		22	21		20						160
中国	10	11	16	15			6	5			44		6			1	114
ドイツ	8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ	10	10	9	2	5		6				15		9	1		12	79
バングラディシュ	5		3								1					3	12
フィンランド	28	7	26	18							13						92
ブラジル	10	9	9	9				5			5		11			6	64
フランス		10	7								20						37
ベトナム	14	4	8	6	2		5	5	3	2			4			2	55
ポーランド	1		1	1													3
マレーシア	36	6	33	22	7		3	5	15	3	33		24	3		15	205
ラオス	10		10		10			5	5		6					5	51
ロシア	51	1	27	3	26		4	9	4	11	36			7		3	182
計	577	171	367	197	107	51	30	80	87	30	280	3	125	38	1	103	2,247

2. 中等学校(前期・後期)（計 16 ヵ国　766 冊）　（2025 年 3 月 31 日現在）

教科／国	国語	社会	歴史	地理	公民	数学	科学	生物	化学	物理・地学	音楽・美術	体育	家政・技術	外国語	道徳・宗教	情報	その他	計（冊）
アメリカ		1	1	1					2								1	6
イギリス	8	8	3	3	2	4	6	1	1	1	2			2		2		43
インドネシア	3	3			3	3	3							3	3		3	24
韓国	5	2	2			3	3				4	2	3	5	2		3	34
シンガポール			3	7		3		1	4	2			2	4				26
スペイン	5		2	3	1	5	2	1		2	1	4	3		4			33
タイ	8	4				10	1	1	1	2	2	2	6				3	40
台湾	9	21	3	3	3	14	26	1			9	10		16			10	125
中国	9		16	8		10		6	5	7	8			11			1	81
ドイツ	3	2	31	9		8	2	3	2	2	5		1	8		2		78
トルコ	12	2	2	4	1	9	4	2	1	2	2	1		3	10			55
ネパール						1	1							1				3
フィンランド	3	4	3	3		6		5	1	1	4	1	1	6	1		1	40
フランス	3		2	1		2								20				28
ラオス	14		7	7	7	8		3	3	3		1	8	18			15	94
ロシア	15	6	9	4		8		4	4	3	10	3	2	5	6	2	6	87
計	97	50	84	53	17	90	39	28	24	25	44	20	26	98	26	6	39	766

3. 公益財団法人モラロジー研究所からの受贈コレクション　（計 18 ヵ国　7,249 冊）

2017 年、公益社団法人モラロジー研究所の施設建て替えにともない、18 ヵ国 7,249 冊にも及ぶ教科書の寄贈を受けた。諸外国の教科書は、以下のとおりである。

国名	受贈冊数	国名	受贈冊数
アメリカ	1,489 冊	ドイツ	760 冊
イギリス	735 冊	旧東ドイツ	48 冊
イタリア	497 冊	旧西ドイツ	256 冊
カナダ	266 冊	ロシア	39 冊
スウェーデン	81 冊	旧ソ連	280 冊
スイス	150 冊	韓国	549 冊
スペイン	150 冊	中国	832 冊
フィンランド	97 冊	香港	236 冊
フランス	616 冊	台湾	168 冊

2025年度 事業計画

＜研究部＞　研究部主任　山川　智子

1.「世界の教科書展」の実施

教科書展は 1994 年から実施してきた企画である。コロナ禍で見合わせていた対面開催も2023年度から再開している。2025年度も引き続き学園祭（藍蓼祭）での対面開催を行う。エジプトの教科書・パネルの現物展示、さらに可能であればレクチャーを行う。2016 年度から続く「OKEGAWA hon＋」（桶川）での巡回展も開催予定。実施方法は、藍蓼祭の形態に準ずる。2024 年度から学内でのリバイバル展（原則、前年度の桶川展示を活用）を行っている。2024年度は東京あだちキャンパスで開催した。2025年度は越谷キャンパスで行う予定で調整中。

2.『教育研究所年報』第 34 号の発刊

2025年5月に発刊（本誌）。世界の教科書展、定例研究会の報告など、前年度の活動報告および今年度活動計画を中心に掲載（全11頁）。

3. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関（他大学を含む）から13名の申請者があり、受け入れを承認した。

4.「定例研究会」の実施

2025年度は年3回（8月、11月、3月・通算第108、109、110回）を実施予定。開催方法は感染症の状況や参加者の事情をふまえ検討していく。

5. 海外の教科書データベースのデジタル管理化

収集した海外の教科書データベースのデジタル化を進め、各国・校種・学年の教科書の表紙画像を加える等、より検索しやすく整理・アップグレードして管理を実施していく。

＜研修部＞　研修部主任　小幡　肇

1.『教育研究所紀要』第 34 号の発刊

『教育研究所紀要』第34号の特集テーマは4月の研究所会議にて正式決定し、5月中旬に、特集テーマに関する論文の依頼、および投稿論文等の募集を開始。原稿の締め切りは 9 月下旬で、2025年12月に発刊予定。

2.『教育研究所ニュース』54 号の発刊

本研究所の事業の進捗状況や活動の報告を中心に、学内外にそれを知らしめていく広報誌としての役割を担う本誌は、5月に『教育研究所年報』が出る関係から、2018年度より年1回の発刊となり、2025年11月に発刊予定。

3.『文教大学の授業』92、93、94、95 号の発刊

引き続き、文教大学の教員の授業を学内外に紹介していく。2025 年度は、教育学部小林稔先生（5月・第92号）、人間科学部宮田浩二先生（7月・第93号）、経営学部首藤洋志先生（10月・第94号）、健康栄養学部長瀬香織先生（1月・第95号）に執筆いただく予定。

4. 教育研究所ホームページの運営・更新

各コンテンツの整備と発信内容の精査、積極的な情報発信に力を入れていく。

5. 刊行物「学校のいま」の発刊

本校卒業生の現職教員に、新学習指導要領・GIGA スクール構想・コロナ禍への対応など、下内の学校教育の様子を紹介してもらう刊行物「学校のいま」を年1回発行予定。

２０２４年度

所　　長	手嶋 將博		
研究部主任	山川 智子		
研修部主任	小幡 肇		
事　　務	河口 恭子	程塚 聡美	
客員研究員	綾　牧子	阪本 陽子	清水 香保里
	矢作 由美子	中川 真規子	木場 雪香
	松嶋 淑恵	梨子 千代美	塚原 元気
	大西 健介	大石 海	丸山 悦子

２０２５年度

所　　長	手嶋 將博		
研究部主任	萩原 敏行		
研修部主任	小林 稔		
事　　務	程塚 聡美		
客員研究員	綾　牧子	阪本 陽子	清水 香保里
	矢作 由美子	中川 真規子	木場 雪香
	青木 大輔	梨子 千代美	三菅 洋輔
	大西 健介	小幡 肇	丸山 悦子
	津村 優里菜		

教育研究所年報 第 34 号

発行日　2025 年 5 月 5 日

発行者　文教大学教育研究所
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337
電話 048-974-8811

印　刷　有限会社 カワカミ印刷
電話 048-976-0007